美容文化論まとめ

【総論】

理容とは？	・理髪と美容の意味を含む ・容姿を整えるという意味	・明治以降、男性の髪を整えることを散髪、整髪、調髪と称した ・明治前期には顔剃りもあわせて行う職業を『理髪業』とよぶようになった
	・バーバー［barber］ 英語でひげを剃る人の意味、現在、英米でも我が国の理容店と同じ意味で用いられる	
美容とは？	・髪・顔・体形などの美しさ、または美しくすること。英語では 『ビューティー[beauty]』	

【美容業の歴史】

髪結床（かみゆいどこ）	・理容業の前身、室町時代、京都で発生 ・男性 →『月代（さかやき）』 月代は、当初武士のものであったが、風俗として庶民に広がった	
髪結床の種類	内床（うちどこ）	・町内に床（店舗）を構えて営業する
	出床（でどこ）	・橋のたもと、河岸（かし）の空地に床を構える
	廻り髪結い	・床（店舗）をもたず、客のところに出張する者

元結（もとゆい）	・髻（もとどり）を結い束ねるためのひも
女髪結い	・女性の髪を結う職業（江戸時代に現れた）

『町々髪結名前書上之事』（まちまちかみゆいなまえかきあげのこと）	・江戸幕府の法令で、髪結い業の者は、すべて名前を書き上げて申告せよ、という趣旨

◎大正から昭和へ移る間に、東京、名古屋、大阪、神戸などに理髪学校・美容学校が複数設立された

理容師法 制定 1947(昭和22)年	・理容業、美容業を一元的に規制する法律
美容師法 制定 1957(昭和32)年	・美容師は、理容師と別の法律で規制されることになった

【ファッション文化史 日本】

【明治時代】

断髪令	・1871(明治4)年、断髪令が出され、月代を作り、髷を結う風習が否定され、散髪が奨励された
散切り頭	・断髪が奨励され、天皇みずから断髪にすると急速に普及し、文明開化の象徴となる。『文明開化は頭髪から』という考えが広まった
女性の断髪	・それまでの歴史にない髪であったため、社会から非難を浴び、東京府は欧米諸国にもみない髪として女性の断髪を禁止した
鹿鳴館の舞踏会	・鹿鳴館の舞踏会が始まり、上流階級の婦人の洋装化が進んだ（欧米ファッションのバッスルスタイルのドレスなど）
婦人束髪会	・より簡単な洋風の束髪に改め、これを普及させる目的で結成され、束髪運動が始まった
西洋束髪	・和装、洋装どちらにもよく似合う髪型（西洋上げ巻き、西洋下げ巻き、イギリス結び、まがれいと） ・当時、洋装はごく一部で、和服に束髪の組み合わせで発達。上流階級婦人、知識層にまず受け入れられ、働く女性に普及した ・まがれいとなどの流行により、リボンが大流行
ひさし髪	・前髪、鬢（びん）、髱（たぼ）全体を膨らませたひさし髪が流行（束髪）
二百三高地髷	・前髪部分の突き出たひさし髪が、日露戦争の戦地の名前とかけて、二百三高地髷とよばれ大正ごろまで結われた（束髪）
日本髪	・明治時代は、日本髪も多くみられた（桃割れ、唐人髷、文金高島田、結綿、銀杏返し、天神髷）
洋服の導入	・宮中における大礼服や通常礼服が洋装と規定され、続いて警察官や鉄道員の制服が洋服となった
海老茶袴	・女学生の代名詞として流行

【大正時代】

男性の髪型	・長髪型ではオールバック、短髪型では角丸刈（かくまるがり）を基本とするスクエアが定着
オールバック	・第一次世界大戦中に手入れが簡単ということから、ヨーロッパに広まった髪型が日本に伝えられ、青年や会社員に好まれた
女優髷	・新劇女優によって結われた、前髪を七三分けにした髪型（束髪）
洋髪	・マーセルウェーブ技術（アイロン技術）が広まり、アイロン技術を応用した髪型を洋髪とよんだ
耳隠し	・マーセルアイロンでウェーブをつけた髪で耳が隠れるようにセットしたもの（洋髪）
背広の普及	・サラリーマンの増加にともない、洋服が男性の仕事着となり、都会の会社員の間で背広上下が普及
モダンガール（モガ）	・大正末～昭和のはじめ、東京・銀座に出現した洋装の断髪女性。男性はモダンボーイ（モボ）
バスガール	・バスガール（女車掌）が登場し、洋装の制服が採用された
女学生の洋装化	・セーラー服とスカートの制服が採用された

【1930年代（昭和）】

リーゼント	・イギリスのスタイルとして紹介され、東京・銀座を中心に流行
パーマネントウェーブ	・電熱式のパーマネントウェーブ機が国産化されて低価格になり、男女の髪型に取り入れられ、特に女性の間で流行した

【1940年（昭和15）】

国民服・もんぺ	・第2次世界大戦になると、軍服をモデルに『国民服』が作られた。 女性は、『もんぺ』が広く着用された

【1945年～1950年代】

リーゼントスタイル	・アメリカから伝えられた男性のスタイルで、戦前と異なり、パーマを利用し、アロハシャツとの組み合わせで爆発的に流行
GI刈（GIカット）	・アメリカ兵の髪型をまねたもので、角丸型風のスタイル
慎太郎刈	・石原慎太郎の髪型の髪型をまねたもの
ヘップバーンカット	・映画『ローマの休日』の主演オードリー・ヘップバーンのショートスタイル(1950年代)
セシールカット	・映画『悲しみよこんにちは』のセシール役を演じたジーン・セバーグのショートスタイル(1950年代)
ポニーテール	・映画『月蒼くして』の主演マギー・マクナマラの、後頭部で束ねた毛束を小馬の尻尾のように垂らした髪型(1950年代)
第2次大戦後の洋装	・アメリカ進駐軍女性の制服をヒントにした肩パット入りのジャケットなど、アメリカンファッションが手本であった
ロングスカートが流行	・アメリカンファッションの影響で、膝丈より長めのロングスカートが流行
マンボ	・若者にキューバ生まれのマンボのリズムが支持され、男性はマンボズボン、女性は落下傘スカート（らっかさん）が流行
立体裁断	・ピエール・カルダンが来日して立体裁断を伝えた
サックドレス	・1958年パリコレで多くのデザイナーが筒型シルエットのサックドレスを採用、日本で作りやすく着やすいと紹介され大流行

【1960年代】

マッシュルームカット	・ビートルズの、きのこ型のマッシュルームカットが流行
男性のロングヘア	・60年代後半にブームとなったグループサウンズのメンバーのロングヘア
アフロヘア	・アメリカの公民権運動の影響と、ソウル・ミュージックの流行にあわせたファッション ・縮らせた髪をふんわりと丸いシルエットにした髪型
アメトラ（アイビールック）	・石津謙介が、アメリカのアイビースタイルをアメトラ（アメリカン・トラディショナル）ファッションとして定着させた
みゆき族	・東京・銀座で、みゆき族 と名付けられた若者が話題になった。短期間できえていった
コンチネンタルルック	・肩幅が広く、ウェストを絞って、胸に厚みを出したヨーロッパ大陸調で、20～30代中心に流行
ピーコック革命	・ネズミ色、黒などダークな色が主体の男性ファッションを、孔雀（くじゃく）の雄のようにカラフルにする動き
ヒッピーファッション	・アメリカのヒッピー運動から生まれた若者ファッションで、そのシンボルは薄汚れたジーンズなどで、自然な不潔さを求めた
ミニスカート	・1960年前後にマリー・クワントが商品化し、ヤングファッションとして世界中に広まった ・1965年パリコレでアンドレ・クレージュがミニスカートを取り上げ話題となった ・背の低い日本人に合うスタイルとして、世代を超え受け入れられ、ツイッギーの来日を契機に流行のピークを迎えた ・下半身の露出オーバーによる美的バランスを保つため、また防寒用として、パンストとブーツの流行も平行した
既製服時代の到来	・パリのオートクチュールデザイナーが高級既製服（プレタポルテ）を作りはじめ、日本でも販売を始めた。 これにより既製服は安物というイメージが払拭（ふっしょく）された

【1970年代】

ウルフカット	・襟足を長めに段々に削いでいくために 段カット ともいわれた
サーファーカット	・肩より長めのセミロングのレイヤードカット（段カット）
サスーンカット	・ヴィダル・サスーンの来日を契機に、幾何学的なサスーンカットが紹介された ・直線的なカットで構成される個性的な表現は、最先端の流行を実践する一部の人の間ではやった
フォークルック	・ケンゾーのフォークルック（フォークロアファッション）が流行
竹の子族	・原宿のブティック『竹の子』の国籍不明の民族服の人気からこの名がついた。派手な衣装で歩行者天国などで踊った

【1980年代】

ソバージュ	・フランス語で野性的という意味。毛先から細かくウェーブをつけて、自然で無造作な雰囲気を出すスタイル
聖子ちゃんカット	・人気アイドル松田聖子の、前髪は目にかかるくらいまで伸ばし、サイドは後ろに流すスタイル
ワンレン・ボディコン	・身体にフィットした女性的な服装に、ワンレン（ワンレングス）という均一の長さのロングストレートヘアが流行
黒の衝撃	・山本耀司（やまもとようじ）、川久保玲（かわくぼれい）がパリに進出し、『黒の衝撃』とヨーロッパで絶賛された

【ファッション文化史　西洋】

【古代エジプト】

かつら	・かつらは、上流階級のシンボルで、上流階級の男女ともに使用した ・長頭型で大きく、人毛、羊毛、しゅろの葉の繊維を材料としてつくられた
くじゃく石	・クレオパトラのアイシャドーとして使われていたことで有名
香油（こうゆ）	・体を清め、肌を滑らか（なめらか）にする香油づくりにも非常にすぐれた技術をもっていた

【古代ギリシャ】

理髪所	・髪やひげを整える『 理髪所 』が出現した	
コスメティック	・化粧品は英語でコスメティック(cosmetics)で、「整った」「秩序だった」という意味のギリシャ語の Kosmos に由来する	
服装	・ドレスでは、薄手のウール地や精巧な織りのリネンが使用された	
	ペプロス	・ウール地を用いた衣服
	イオニア式キトン	・プリーツ加工をしたリネンを用い、体の線が透けて見えるシースルーの衣服

【中世ヨーロッパ】5世紀～15世紀

◎中世初期～13世紀ごろまで、ヘアスタイルやメイクは、教会（キリスト教）により万事控えめが求められ、華美なスタイルは厳しく規制されていた
◎中世初期のフランスでは、外科医の仕事の中に理髪も含まれていた

理髪師の同業組合	・14～15世紀ごろ、英仏では理髪師の同業組合が作られた
ウィンブル	・首元を覆（おお）う布。ベールとともに用いられた
エスコフィオン	・大型で装飾的な、さまざまな形につくりあげた上流の女性のかぶり物
エナン	・先の細くとがった円錐形や、その先端をカットした形の女性の帽子

【16世紀　ルネサンスの時代】

◎エナン、エスコフィオンは見られなくなる

男性は短髪	・フランス男性の間で短髪が流行、そして、ヨーロッパでも広く男性の短髪が流行した
かつら・ベレー帽	・頭髪の薄くなった男性に、かつらの使用がみられ、同時にベレー帽タイプのかぶり物が流行した
入浴習慣の衰え	・体に害があると信じられていたので、入浴習慣が衰え（おとろえ）、体臭を意識して、香水への欲求が高まった

【17世紀】

男性	かつらの大流行	・長い髪が高い身分のシンボルとなり、何種類ものかつらが、TPOによってかぶり分けられた
	髪粉	・髪やかつらに、色の髪粉をかけることが大流行
	ラブロック	・カールさせた一房の長い巻き毛に蝶結びのリボンを付けて前に垂らすスタイル

女性	ユルリュ・ベルリュ	・『そそっかしい女の髪型』という意味で、派手ならせん形の巻き毛や縮れ毛の房をサイドにあしらったスタイル
	フォンタンジュ風	・レースのリボンを前髪で結ぶのが特徴。やがて針金の骨組をいれて、 高々と飾り付けるようになった

【18世紀】

男性	◎かつらのおしゃれが中心だが、17世紀の大きな末広がりの長髪スタイルはなくなり、こじんまりした髪型 ◎髪粉も盛んに使用された	
	結びかつら	・髪を首の後ろでまとめて黒いシルクのリボンを結んだもの
	カドガン	・テール部分を襟足で折り返して輪にし、ひもや蝶結びのリボンで留めたかつらで、前髪を高くあげているのも特徴

女性	◎静脈を青色でなぞって強調することが、フランス宮廷の女性に流行した	
	ナチュラルなスタイル	・18世紀中ごろまで、前髪を巻き毛にし、残りを頭の上で小さなシニョンにまとめるナチュラルなスタイルが多かった ※ シニョン・・女性の後頭部につける洋風の髷
	驚くほど高く大きい髪形	・1760年代以降に登場し、土台に、針金の骨組み、馬毛や綿でつくられたかつらが使用された ・上流の女性の髪は、といたり、櫛（くし）をいれたり、洗うことができないため、悪臭を香水でごまかしていた

【18世紀末～19世紀初め】

男性	◎フランス革命後、貴族階級にみられた長いスタイルやかつらがなくなった ◎革命後、キュロットがすたれ、タイツのように細い長ズボンになった

女性	◎革命前の巨大なスタイルはなくなり、古代ギリシャ・ローマ風のスタイルが流行した

【19世紀】

男性	シルクハット	・18世紀末～19世紀中ごろまで、ヨーロッパ各地でかぶられていた

女性	◎19世紀初期には簡素な髪型が好まれた	
	髪の漂白技術	・髪の漂白技術で、過酸化水素水を使う方法が知られ、人工的に金髪にすることが行われるようになった
	酸化亜鉛	・化粧品に使用される鉛や水銀の毒性への警戒心がいっそう認識され、無害の酸化亜鉛(亜鉛華)が発見され普及した
	ブルーマーズ	・上流階級の男女にサイクリングが流行し、女性はスポーツウェアとして、当時画期的な服装であるブルーマーズをはいた

【20世紀初頭（1910年～1920年代）】

ポンパドール	・前髪を巻き毛にした ポンパドール の誇張したスタイルが、上流階級の女性に流行
マーセルウェーブの普及	・マーセルウェーブ が普及し、髪の分け方の人気は中央分けから、横分けに移った
日焼け色	・歴史上初めて『日焼け色』がファッションになった

【1930年代～1940年代前半】

コールドパーマネントウェーブ	・1936年、イギリスの スピークマン が薬剤を用いて40度程度の温熱でウェーブを形成する技術を開発

【1940年代後半～1950年代】

◎アメリカの男性の間で、エルビス・プレスリーのようにウェーブをかけた髪型が人気があった	
ヘップバーンカット	・映画『ローマの休日』の主演オードリー・ヘップバーンのヘアスタイル
セシールカット	・映画『悲しみよこんにちは』のセシール役を演じたジーン・セバーグのヘアスタイル
ポニーテール	・スクリーンファッションとして若い女性に大流行

【1960年代】

サスーンカット	・ジオメトリック（幾何学的(きかがくてき)） カット ・ロンドンの美容師ヴィダル・サスーンが、マリー・クワントの1963年のコレクションで、ジオメトリックカットを発表し、話題となった
ミニスカート	・ロンドンのダウンタウンのティーンエイジャーから始まったストリートファッションで、極端な短さから『ミニスカート』とよばれた ・既製服として売り出し成功を収めたのが、マリー・クワント

【1970年代】

レイヤードカット	・日本では段カットとよばれ、上は短めで、下にいくにしたがって層をなして長くカットしていったもの
サーファーカット	・サーフィンをしたとき、髪が風になびく風情をねらったもの（ハイレイヤー）

【1990年代】

ファストファッション	・1980年代末期バブル経済崩壊以降の不況の中で迎えた1990年代から、注目されている ・安く、手軽で、すぐに食べられるファストフードになぞらえた造語。H&M、ZARA、GAP、FOREVER21、UNIQRO など

【和装の礼装】

◎和服は日本の伝統衣装であり、あまり時代の変化に左右されず、正式（フォーマル）な着装が定められている

【花嫁の礼装（式服）】

◎花嫁が着装する礼装は、小袖 の上に 打掛 を重ねたもので、起源は桃山時代の上級武家の夫人の正装である	
小袖（こそで）	・花嫁衣裳における、打掛の下の小袖のことを 掛下（かけした）とよぶ（間着（あいぎ）、長着（ながぎ）とよぶこともある） ・今日、打掛の下に着用する小袖は、『振袖（ふりそで）』である ・「振り」とは、着物の袖の付け根から下まで開いている部分のことである ・振りのある袖を振袖といい、袖丈が1m14cm前後の長着を振袖（大振袖）とよぶ ・身丈（みたけ）は、引き裾（ひきすそ）となる丈に仕立てる
黒振袖（くろふりそで）	・黒縮緬（くろちりめん）の総模様に五つ紋を染め抜いた振袖の下に、白羽二重（しろはぶたえ）の下着を重ねたもので、打掛を重ねなくとも正式の花嫁衣裳とされている ・明治時代には、黒振袖が花嫁の礼装とされていた
白無垢（しろむく）	・掛下、帯、小物等すべてを白一色でまとめた花嫁衣裳
掛下帯（かけしたおび）	・小袖の上につける帯。丸帯を文庫結びにする
小物	・懐剣（帯の左胸下にさす）、筥迫（はこせこ）、末広（すえひろ）
打掛（うちかけ）	・帯を締めた上から打ち掛けて着ることからこの名称が生まれた。『掻取（かいどり）』ともよぶ ・白地に模様を織り出した『白打掛』と、様々な色を用いた『色打掛』がある
色直し	・大振袖の二枚重ねが正式

【女性の礼装】

振袖（ふりそで）	・未婚者の場合は、振袖を着用する。染め抜き五つ紋が正式である
留袖（とめそで）	・既婚者の場合は、留袖（とめそで）を着用する。染め抜き五つ紋が正式である ・第一礼装には、白の半襟を用いる ・模様は裾（すそ）だけにあしらわれる ・黒地を『黒留袖』、黒地以外の留袖を『色留袖』という
黒留袖（くろとめそで）	・既婚者が着用する ・結婚式列席の親族、仲人婦人が着用する
色留袖（いろとめそで）	・既婚女性に限らず着用できる ・色留袖の場合は三つ紋・一つ紋のこともあり、社交着としても着用される

【女性の準礼装】

◎結婚式や披露宴のほか、新年会、各種の祝宴、パーティーなどでの晴れ着である ◎代表的なものは『訪問着』で、ほかに『付け下げ（つけさげ）』があり、未婚者、既婚者の区別はない	
訪問着（ほうもんぎ）	・肩、袖、腰から裾へかけて、前身ごろ、後ろ身ごろと、縫い目にまたがる 『絵羽模様（えばもよう）』とよばれる華やかな絵画風模様が特徴
付け下げ（つけさげ）	・訪問着より気楽に着用される ・絵羽模様と違い、縫い目で絵がとぎれてつながっていない ・模様の配置が上前には広がっているが、後ろ身ごろ、肩、袖、胸には、それぞれ独立したものが配置され、模様が全部上向きに置かれている

【男性の礼装】

◎正式なものは、染め抜き五つ紋の黒の着物に、仙台平の縞柄（しまがら）の袴（はかま）を着用し、染め抜き五つ紋の黒の羽織（はおり）を重ねる
◎既婚・未婚の区別なく、慶弔（けいちょう）の違いもほとんどなく、婚礼や成人式などに着用されている
◎仙台平とは、絹製の男もの袴地（はかまじ）の総称である

【洋装の礼装】※教科書 P187 図10～図14 参照

【男性の礼装】

◎洋装の男性の礼装は、種類とＴＰＯが明確で、その歴史的背景がはっきりしている

◎我が国では、昼も夜も白のネクタイを結んだ、黒のダブルブレストのスーツが広く男性の礼装とされているが、欧米の習慣にはないものである

昼間の正式礼装

モーニングコート	・色は黒で、フロントラインが前から後ろへなだらかなカーブを描いてカットされているため、カッタウェイの別名がある ・シングルブレスト、1つボタン

昼間の略式礼装

ディレクターズスーツ

夜の正式礼装

燕尾服（えんびふく）	・後ろの部分が燕（つばめ）の尾を思わせる。英語名はスワローテールドコート ・色は黒で、ダブルブレスト6つボタン、ただし、ボタン掛けはしないで着装 ・白の蝶ネクタイを締めることから、通称『ホワイトタイ』とよぶ

夜の略式礼装

メスジャケット	
タキシード	・黒の蝶ネクタイを結ぶことから、通称『ブラックタイ』とよぶ

【女性の礼装】

昼間の正式礼装

ローブモンタント	・男性のモーニングに対応

夜の正式礼装

イブニングドレス	・フォーマルドレスとも呼ばれ、男性の燕尾服着用の『ホワイトタイ』に対応
ローブデコルテ	・宮中晩餐会（きゅうちゅうばんさんかい）などのような格式の高いところで着用するドレス ※宮中晩餐会・・・天皇・皇后が国賓をもてなすために宮中で催す晩餐会

夜の略式礼装

カクテルドレス	・男性の『ブラックタイ』に対応 ・イブニングドレスよりは丈も短く、ややシンプル

	昼		夜	
	正式礼装	略式礼装	正式礼装	略式礼装
男性	モーニングコート	ディレクターズスーツ	燕尾服（ホワイトタイ）	メスジャケット タキシード（ブラックタイ）
女性	ローブモンタント		イブニングドレス ローブデコルテ	カクテルドレス